在京白堊會報

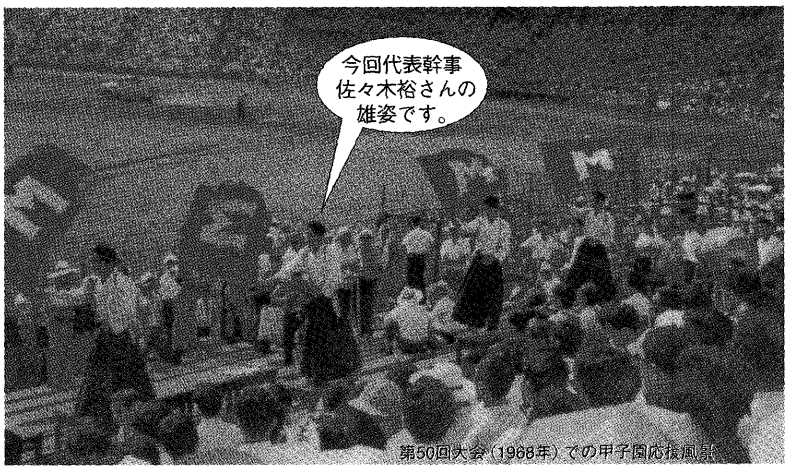
第10号
平成13年3月24日
発行
在京白堊会
〒101-0025 東京都千代田区
神田佐久間町1-11
産報佐久間ビル
産報出版（株）内
TEL&FAX（03）3254-9301

集え、白堊健児！

第32回在京白堊会総会

母校甲子園出場の感動を青山で再び！

今年は5月11日㊎開催



第50回大会（1968年）での甲子園応援風景

ご案内
日時：5月11日（金）午後6時～
場所：ホテル・フロラシオン青山（旧・東京青山会館）
会費：10,000円（年会費2,000円を含む）
学生・院生　3,000円（同上）

今年も総会の季節が近づいて参りました。皆様いかがお過ごしでしょうか？

総会も、数えて第32回。本会が母校野球部の甲子園出場を応援すべく設立されてから、32年の月日が流れたわけです。当時18歳であった紅顔の白堊健児らは、今や社会の中枢を担う50歳を迎え、今回の総会の幹事役を務めさせていただくことになりました。

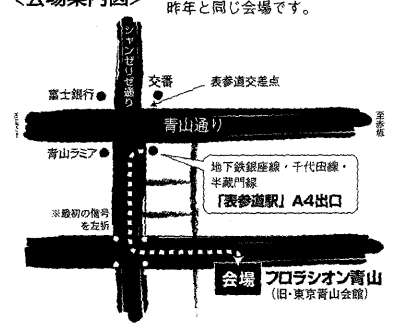
この縁深き会を盛り上げるべく、アトラクションとして、甲子園出場への軌跡をまとめたビデオを上映する予定であります。皆様と共に、ベストエイト進出の感激を今一度蘇らせ、快哉を叫びたいと思います。

微力ではありますが、5月11日の総会開催に向けて、着々と準備を進めておりますので、同期あるいは部活の仲間同士、互いにお誘い合わせの上、多数ご参集ください。心よりお待ちしております。

三田校長（2000年）

なお、出欠のお返事は、4月20日（金）までに同封の葉書またはEメールにてお願いします。

●Eメールアドレス
sasaki@sokudoku.co.jp
在京白堊44会
幹事代表　佐々木　裕



ホームページ紹介続報

各年次ごとのホームページが増え、
それぞれ特色を競っています。
ときどき覗くと面白い情報が発見できるよ。

在京白堊会（hakua tokyo）のアドレス
http://www.hakua.sokei.co.jp/index.htm

前号で在京白堊会関係のホームページをご紹介しましたが、その後も、各年次のホームページ開設が続いています。

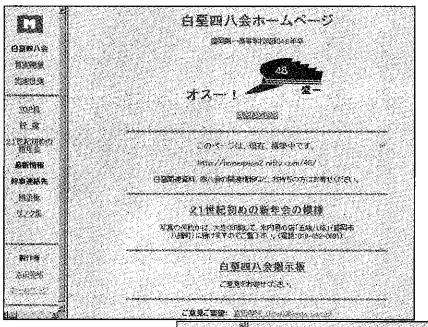
なかでも昭和44年卒、在京白堊44会の公式ホームページ「hakua44」は、今年の幹事担当年次の連絡用途や報告を兼ねており、在京白堊会の公式ホームページ同様、要チェックのサイトです。掲示板（自由発言コーナー）に励ましのメッセージも書き込みましょう。

総会参加の申し込みは「hakua44」及び在京白堊会のホームページ経由（事務局宛てEメール）でも受け付けます。

参加申し込みは、最終的には担当幹事年次が集約します。

白堊四八会ホームページ（昭和48年卒）

http://homepage2.nifty.com/48/



このサイトは東京ではありませんが、制作者で管理人の吉田等明さんは、現在、岩手大学工学部助教授で、カオスやニューラルネットワーク、暗号遺伝的アルゴリズムなど最先端情報工学の専門家のようです。

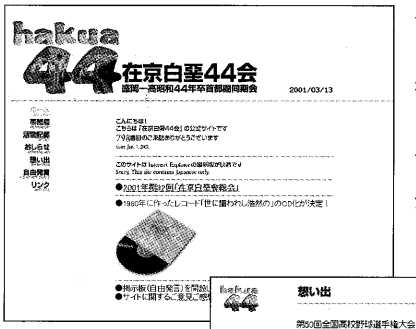
サイトは岩手でもコミュニケーションに不便がないのがインターネットの最大の利点。四八会のみなさんを中心に、楽しいサイトに育てましょう。

ところで、岩手マルチメディアセンターがすごい施設だと東京のマニアの間では評判だけど、吉田さんのような方がリードしているのかなあ。

母校は未だにその方面の反応が鈍いようだけど…。

hakua44（在京白堊44会）

http://www1.odn.ne.jp/~cah45560/hakua/hakua44_home.htm



今年の幹事年次が２月１日に立ち上げたホームページです。

在京白堊会結成のきっかけとなった甲子園ベスト８進出当時の３年次らしく、甲子園球場での応援写真などが充実しています。

活動記録をみると総会準備も着々と進んでいる様子。５月の総会が楽しみです。

これからの１カ月余が準備の本番ですから、気持ちを引き締めてがんばってね。

幹事年以外の会員のみなさんは、この44会ホームページの掲示板に応援のメッセージを寄せましょう。

あたたかい励ましのひと言で、ホント、幹事のやる気が違ってくるんだから…。

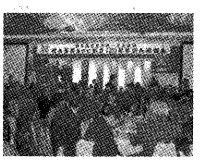
掲示板から

在京白堊会及び各年次のホームページから、会員同士の“おしゃべり”を拾ってみました。それぞれに特色も出てきています。みなさんも是非、おしゃべりの仲間に参加してください。

［在京白堊会ホームページ］

○120周年式典出席

岩手県民会館で行われた記念式典とグランドホテルの祝賀会に出席してきました。式典は生徒をふくめて１５００人、祝賀会は６００人の出席で盛会でした。岩手日報には２ページとおしのカラー広告が出てました。いずれ写真も載せてもらいます。（投稿者・及川昭伍＝注・在京白堊会会長＝00年10月６日）



120周年記念式典風景
（2000年10月６日）

○一球一魂

こんにちは。平成10年卒、野球部ＯＢの吉田透と申します。私の同期の佐藤崇史（明大３）と佐々木建（慶大３）が野球を続けてがんばっています。神宮の大舞台に立つということは、いうまでもなく容易なことではありませんが、先週（10月１日）の明大vs東大戦で佐藤崇史が代打で登場し、見事三塁打を放ちました。これからも活躍が期待できると思います。（投稿者・吉田透00年　10月15日）

○白堊ラグビー部ＯＢ会

去る９日、銀座にて毎年恒例の「白堊ラグビー部ＯＢ会」が開催されました。詳しくは下記URL（http://www1.sphere.ne.jp/hakuaoen/）電子掲示板にてご覧下さい。～以下略～（投稿者・白堊博物館長　星邦彦　00年12月12日）

○こんにちは

現在東京でガンバッている30代の一人です。（名前は男性的ですが、女性です）一高の同級生には（勿論諸先輩方は言うまでもなく）東京でも各業界で活躍している人が多く、私もいつも励まされます。他人を蹴落として上に昇っていくのではなく、実直で少々お人好しながらも周囲に認められてその地位に就いている人が多いような気がします。私は今外資系で「見せる仕事」が主流の環境にいます。時々その環境に疲れた時、同級生と会うとホッとします。（投稿者・菅野八潮　00年２月18日）

［七夕会（41年卒）ホームページ］

○北京から

在京時代にお世話になりましたが現在北京におります。世の中面白いもので桜田、三田地の両君がそれぞれ北京と上海に〜

在京ハンドボール白堊クラブ総会開催

寄稿

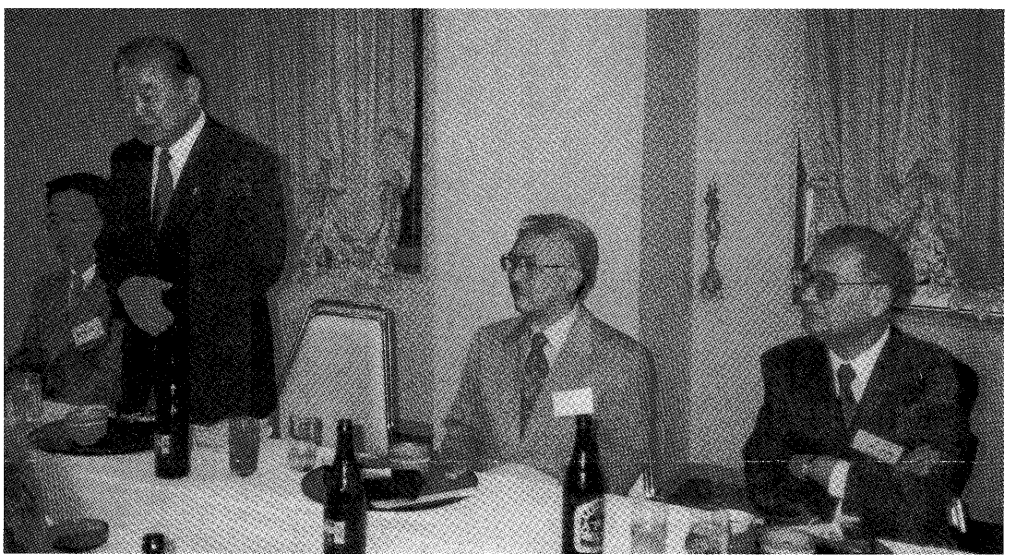
前会長 **玉城忠往**（昭和25年卒）

創部50周年を記念して、総会を昨年開催した。

盛岡から初代部長の箱崎敬吉先生（現岩手県体協理事長）と現部長の岡市武先生をお迎えし、第1期（古稀）から若手の35期までの18名が集った。モントリオールオリンピック選手の46年卒の菊池悟君も出席した。

先生からの現役諸君の平成12年度高校選抜大会ベスト8の大活躍ぶりの報告に喜び、集った諸君のそれぞれの時代の話題に盛り上がった。

異口同音に練習はキツかったが、大会では結構ツイテおり、良い成績で全国大会で活躍したという人が多かった。



挨拶をする箱崎先生（左から岡市先生（53年卒）　箱崎先生　玉城さん（25卒）　島川さん（26卒）
（箱崎先生は昨年11月3日、岩手日報の「文化・体育賞」を受賞されました）

これは創部から東北大会を制し、連続国民体育大会出場（最高準優勝）を実現し、全国の強敵と他流試合をして、世の中には自分たちとは違った才能や技術を持った連中が大勢いることを認識させられ、チームや自分がどのように対処すべきかを考え、実行してきた結果であろう。

また、集まった諸君の現在のそれぞれの立場での積極的な社会人としての大活躍ぶりを披露してもらい、多感な青春期に多面的（文武両道や他流試合他）な体験をし、前向きな考え方や粘りの精神を体得し、数多くの感動を得て、人格の形成に努めてこられたのであろうと思った。

そして「経験と感動が人格を創る」ということが納得できた次第であります。

老、若、世代間を問わず共通の場を持った者が交流を深め、お互いに活力を再構築することは、長い人生にとって有意義なことだと思います。このような良き伝統を永く受け継ぎ続けてもらいたいものであります。

在京白堊会も同様に皆様大勢集まって、活力を新たにしようではありませんか!!

さて、この会も半世紀を経過したので、島川副会長ともども小生も会長を辞した。若返って新しい感覚の新会長の下、若い人中心にこの会がますます発展していくよう期待している。

先日3人で飲みましたがその内チャイナ分会ができるかも知れません。（投稿者・田澤光弘　00年11月4日）

○東チモールでのアグスの話し

～前略～グローバリゼーションは、我々が自覚しているよりもずっと速いスピードで進んでいます。四半世紀前を振り返ると、あと四半世紀もしたら国境は地方を分ける境、くらいの感覚になっているのではないかと思ったり、それを見届ける程長生きはしないかもしれないと思ったり、……これからは、悔いなく生きていきたいですね。（投稿者・田島文子　00年11月26日）

［疾風会（42年卒）ホームページ］

○第一書店閉店

以前、盛岡大通談義に花が咲いていましたが、その中心的な店でもあります「第一書店」がこの20日で閉店すると、さっきのニュースで言っていました。郊外に大型のショッピングセンターや書店がオープンし、大通りの店は大変だなあと感じておりましたが、まさか…ねえ。昔から、大通りを通れば必ず覗く店だったのに。大学に入ってからも、夏休みなどに店にいくと帰省した同級生に会えるところでした。盛岡もどんどん変わっていきます。（投稿者・義姉さんです　01年2月8日）

○一時話が盛り上がっていたとは露知らず

ちょうど一カ月前、私がサンチャゴから初めてした投稿が話題になっていたと、たった今来た川村コッペ氏からのメールで知り、またやって来ました。実はチリはすでに離れ、今はジャカルタにおります。～中略～

では、ここで問題です。赤道の上で見る夕方の上弦の月はどのように見えるのでしょうか？あるいは北極では？南極では？私はしばらく考えてしまいました！（投稿者・豊間根則道　00年2月21日）

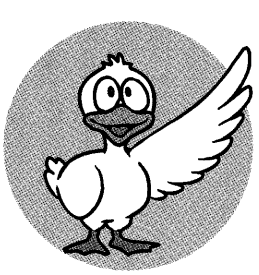
［在京白堊四五会ホームページ］

○ニューヨークからこんにちは

ニューヨークはロングアイランドのブルックヘブンというところにある研究所の宿舎から投稿しています。JFK空港から車で1時間と少々の場所にあります。今は夜の12時前。数カ月前から宿舎の各部屋からネットワークがつかえるようになったみたいです。～中略～

来週の日曜日に帰国します。それでは、また。（投稿者・千葉順成　00年1月15日）

（無断転載ごめんなさい。編集部）



白堊活躍人 INTERVIEW

味やにおいの世界は未知のことが多く、まだまだ科学的には発見が続く分野です。食べたり飲むことに直結しているので、身近で奥が深いです。

横向慶子（よこむかいよしこ）さん（S55年卒）

昭和55年卒。東北大学農学部・大学院食糧化学専攻。農学博士。昭和61年キリンビール入社。現在、嗜好リサーチグループチームリーダーとして、お客様の「味」の好みの調査の責任者。

●味覚のスペシャリスト

――「午後の紅茶」を開発した方だと伺いましたが？

横向 はい。中味の味の担当でした。10年以上前の仕事ですがこんなに息の長いヒット商品になるとは思いませんでした。

――横向さんの仕事は具体的にはどのような内容ですか？

横向 3月14日に「KB（ケービー）」という新しいビールを発売しましたが、私は商品開発研究所でお客様の香味の嗜好性を調査・分析し、新商品の味について提案する仕事をしています。「KB」は若者向けに"キモチいいビール"というコンセプトで開発した商品で、爽快感があり、思わず立っちゃうほどハッピーなときにおいしく飲んでいただきたいビールです。ラベルのキリンも立っているでしょ。ぜひ、飲んで見て下さい。

――味覚の分野に進むことになったきっかけは？

横向 もともと、食べ物はどうやったらおいしく食べられるかとか、病気にならない予防医学的な食事に関心があり、大学で栄養化学と味覚生理の関係を研究しました。会社に入ってからは、清涼飲料の開発の後、味覚では世界最先端の研究機関のペンシルバニア大学モネル化学感覚研究所に派遣され、3年間留学することができ、博士論文も仕上げることができました。味とかにおいは人間にとっては古い脳で処理する感覚といわれ、その分、視覚や聴覚に比べ老いても衰えず、生命維持に直結しています。味覚は別名「ゲートキーパー（門番）」ともいわれ、食べ物が腐っていないか、毒物などが入っていないか、識別する役目も果たしています。味蕾が密集した舌の奥の部分で、飲み込んでいいかどうかの判断をしているのです。私の専門は味覚ですが、味やにおいで突然思い出すシーンや記憶があり、奥の深い面白い世界ですよ。

●健康に楽しめる味を追求

――横向さんの夢は？

横向 世界中の人においしいと思ってもらえる飲料をつくること。私たちの体は、恒常性を維持するために体が欲しているものをおいしいと満足する機能を持っています。文化や気候の違いなどがあって難しいかもしれませんが、単品ではなく食事との組み合わせという発想なら不可能ではないと思っています。専門の栄養化学の立場から、世界中の人々が、食べ物を楽しみながら健康に暮らせることに貢献できたらいいなと思っています。

――在京白堊会へのご要望は？

横向 仕事に集中していたこともあり、最近偶然お会いした同窓の先輩にお聞きするまで、こうした会があること自体を知りませんでした。これからは、日本にいるかぎりできるだけ参加したいと思っていますが、年1回の総会ばかりでなく、クリスマスパーティとか観劇会、ときにはディスカッションできる集まりなど、いろいろな行事を企画していただけたなら、新しい人脈や人の輪が広がり、もっと楽しい会になるかもしれませんね。私に協力できることがあれば、お手伝いさせていただきたいと思っています。

（キリンビール営業本部 マーケティング商品開発研究所 嗜好リサーチグループチームリーダー）

「在京三四会」連絡先のご案内

＜名称＞在京三四会

＜幹事および連絡先住所＞

田村捷利 〒273-0105 鎌ヶ谷市鎌ヶ谷 9-7-35-4

星 邦彦 〒229-1111 相模原市宮下本町3-49-19 MB203 （hosi-k@mbe.sphere.ne.jp）

＜URL（在京三四会ホームページアドレス）＞

http://www.hello.co.jp/~hikokuni/sansi/34.HTM

※新しく連絡先が決まった年次は、事務局までお知らせ下さい。

編集後記

今回初登場の「活躍人インタビュー」いかがでしたでしょうか。横向さんへの取材は、事務局へ寄せられた会員からの「同窓生でこんな方がいるよ」という1通のご紹介の手紙からでした。

横向さんのお話を伺っていて思い出したのが、ソニー元取締役の黒木靖夫氏が最近よく言っている「ものづくりの基本は技術だけでなく感性を磨くこと。なかでも日本人は味覚、嗅覚が特に優れておりこれを生かすべきだ」という言葉です。

酒文化に関しては、岩手には南部杜氏の伝統もあり、横向さんが世界中の人々に愛飲される「味」を開発することも、きっと夢ではないでしょう。

在京白堊会ホームページでもいろいろ活躍人のお名前が飛び交っています。自薦他薦大歓迎。次回もご期待を。では、5月11日の総会でお会いしましょう。